

新しい技術の介護現場 への導入

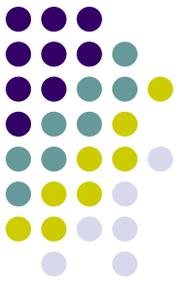
人の動きを知ることで持ち上げない介護が可能となる

介護老人福祉施設 月寒あさがおの郷

○大浦 孝之
今野 民子
澄川 睦男

介護福祉士
看護師
理学療法士





1・はじめに・目的

新しい技術の介護現場
での有用性の紹介



2・方法

1. リフティングトランスファーとその応用 下肢・リフティングトランスファー





新しい技術の紹介(2)

肩・リフティングトランスファー



トイレでの応用



浴室での応用

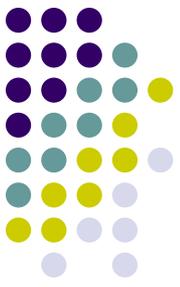


浴室での応用 シャワーチェアから浴槽へ



床から車椅子への移乗





M-Hキネステティクス^R

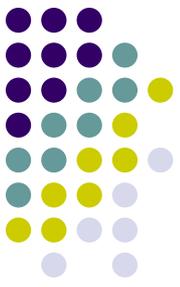
(以下キネステティクスと略)

キネステティクスとは

動きの概念を使って人の動きを理解し支援する。

看護や介護に応用され持ち上げない介助を可能にしている。

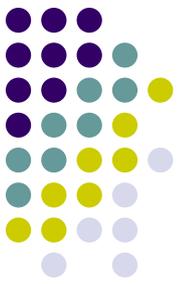
ドイツではすでに看護教育の必修コースとなっている。



キネステテュクスの概念

- **インタラクション** 感覚・動きの要素・パターン
- **機能的解剖** 骨と筋肉・マスとツナギ・オリエンテーション
- **人の動き** 保つ動きと運ぶ動き・パラレルとスパイラル
- **力** 押しと引き
- **人の機能** 単純な機能:基本体位 複雑な機能:その場の動き/移動
- **環境**

キネステティクスの応用 1



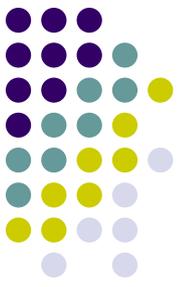
マスを積み上げて床上の座位から立ち上がりの介助



キネステティクス前



キネステティクス後



キネステテュクスの概念

- インタラクション 感覚・動きの要素・パターン
- **機能的解剖** 骨と筋肉・**マスとツナギ**・オリエンテーション
- 人の動き 保つ動きと運ぶ動き・パラレルとスパイラル
- 力 押しと引き
- 人の機能 単純な機能:基本体位 複雑な機能:その場の動き/移動
- 環境



キネステティクスの応用 2

オリエンテーション回復による姿勢の改善



キネステティクス前



キネステティクス後



キネステテュクスの概念

- インタラクション 感覚・動きの要素・パターン
- **機能的解剖** 骨と筋肉・マスとツナギ・**オリエンテーション**
- 人の動き 保つ動きと運ぶ動き・パラレルとスパイラル
- 力 押しと引き
- 人の機能 単純な機能:基本体位 複雑な機能:その場の動き/移動
- 環境



キネステティクスの応用 3

インタラクションパターンの変更による歩容の変化



キネステティクス前



キネステティクス後



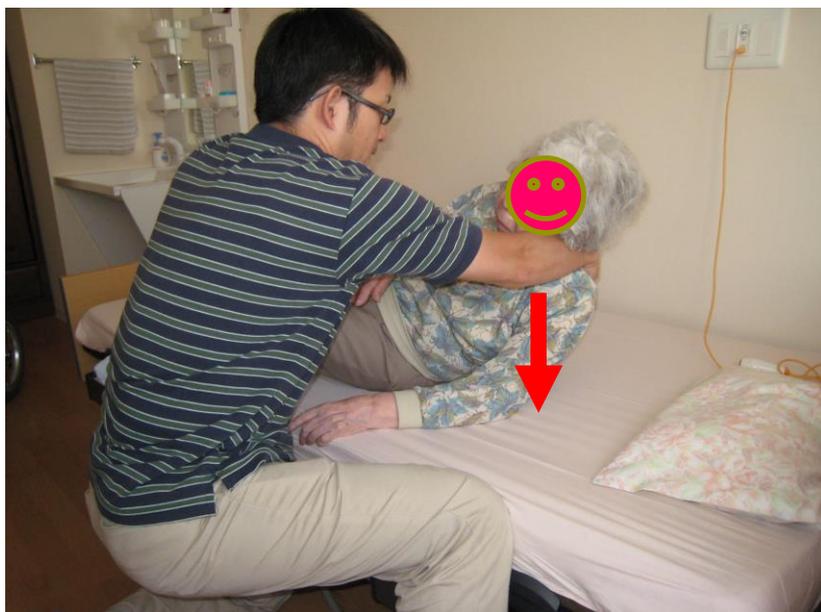
キネステティクスの概念

- **インタラクション** 感覚・動きの要素・インタラクションパターン
- **機能的解剖** 骨と筋肉・マスとツナギ・オリエンテーション
- **人の動き** 保つ動きと運ぶ動き・パラレルとスパイラル
- **力** 押しと引き
- **人の機能** 単純な機能:基本体位 複雑な機能:その場の動き/移動
- **環境**



キネステティクスの応用4

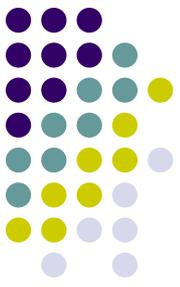
骨と筋肉、マスとツナギを意識した起き上がり介助



キネステティクス前



キネステティクス後



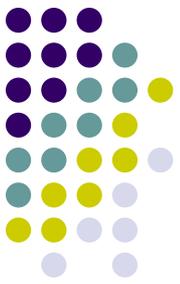
キネステティクスの概念

- **インタラクション** 感覚・動きの要素・インタラクションパターン
- **機能的解剖** 骨と筋肉・マスとツナギ・オリエンテーション
- **人の動き** 保つ動きと運ぶ動き・パラレルとスパイラル
- **力** 押しと引き
- **人の機能** 単純な機能:基本体位 複雑な機能:その場の動き/移動
- **環境**

結果（リフティングトランスファー）

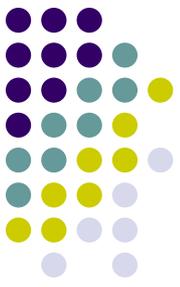


- 身体的な負担が軽減できた。
- 介護の幅が広がった。
- マンパワー不足の改善。
- 家族との信頼関係の構築。



結果2(キネステティクス)

- 入居者の力を引き出しお互いの負担を軽減。
- 入居者の時間に動作をあわせることができる。
- 入居者の身体を使うことによって廃用予防が可能。



考察(リフティングトランスファー)

- 持ち上げない介助をすることで介助者の身体的な負担は減少した。
- ユニットケアでは一人でユニット全体をみなければならぬ時間帯が存在する。一人でトイレや移乗が出来ることにより介護の幅が広がり、結果的にマンパワーを効率的に使えるようになった。
- 入所前にオムツで過ごされていた入居者がトイレを使用することによって、家族は感謝し信頼関係が深まった。



考察(キネステティクス)

- 人の動きを深く理解することにより、入居者の動きに沿った適切な介助が可能となった。このことにより、入居者自身の力を引き出すことが可能。
- 介助の中の時間、空間、力を考えることが可能となった。
- 入居者自身の能力を引き出すことにより、廃用予防が可能となった。



結論

- 新しい技術を介護現場に導入することにより、介助者入居者双方の負担が減り、さらに数々の利点が認められた。
- 入居者のQOLの向上や見取りケアにも有用であると思われる。
- さらなる技術の導入や向上によって入居者のより良い生活を援助することが可能となるであろう。